



彩り豊かな和菓子作りを体験



ウ ロコヤ総本店（尾花沢市）で7月7日（土）に「わくわくお菓子教室」が開かれ、町内の小学生15名が上生菓子作り挑戦しました。このお菓子作り教室は大石田町総合体験活動事業の一環として毎年行われているものです。

教室では、和菓子職人が作り方を実演したあと、子どもたちは白あん（きしつ）に求肥と山芋を入れて練り上げた練りきり餡を平たく伸ばしたり、こねて丸めたりしながら菓子作り挑戦し、それぞれがアレンジを加えた表情豊かなキャラクターやさくらんぼ、あじさいをかたどった色鮮やかな上生菓子を作りました。

奥の細道サミット開催

奥 の細道サミット in 大石田が7月14日（土）、15日（日）の2日間、虹のプラザなどで開催されました。サミットには俳人松尾芭蕉が「おくのほそ道」紀行で足跡を残した自治体など全国の42団体が加盟していて、7月14日は芭蕉が大石田を訪れた旧暦5月28日にあたります。14日は加盟団体の関係者約60名が出席して総会が開かれ、「奥の細道」の日本遺産への再申請や、芭蕉の旅から330年を迎える来年度に記念事業を行うことなどを話し合いました。

続いて行われた記念講演では、フリーアナウンサーの福澤朗さんが俳句にからめて自身のコミュニケーション術を紹介しました。15日は、芭蕉が訪れた乗船寺や向川寺などでサミット参加者らの見学が行われました。



みんなで登ろう大高根山

や まがた百名山に数えられる大高根山（標高542.9m）に登る町民登山が7月8日（日）に行われ、約40名が町で一番高い山の頂上を目指してさわやかな汗を流しました。町民登山は登山道を整備している「大高根山の会」（遠藤廣吉代表）が企画して毎年行われています。

今回は、会のメンバーが木の枝や下草を刈り払って新たに整備した八森山コースを登り、途中何度か休憩を入れながら約2時間で大高根山の頂上へ到着しました。この日はあいにくの曇り空でしたが、頂上付近では晴れ間から町が一望でき、参加者は心地よい汗をぬぐって、眺望を楽しんでいました。



きれいな川を大切に



大 石田北小学校の4年生児童による水生生物調査が6月25日（月）にすいか橋近くの丹生川で行われました。これは自分が住む地域の川について知識を深め、川を大切にしてもらおうと国土交通省新庄河川事務所が企画したものです。子どもたちは水の中に入り、河川事務所職員の指導を受けながら川底の石をひっくり返して指標となる水生昆虫を採集しました。

調査ではきれいな水を好むヒラタカゲロウ類などが多く見つかり、調査地点の水質は「きれいな水」と判定されました。河川敷にごみを捨てない、汚水を川に流さないなど、きれいな川を守っていくため、みなさんのご協力をお願いします。

ボートで最上川を体感



ゴ ムボートで最上川を下るトムソーヤの冒険 in 最上川が6月23日（土）に行われ、町内の小学生23名が、川端地区から川前地区までの約5キロの川下りに挑戦しました。この「トムソーヤの冒険シリーズ」は、町教育委員会と放課後子どもプラン運営委員会の主催で毎年行われているものです。子どもたちはゴムボートに乗ると、大石田アウトドアクラブ遊Be 隊のメンバーに教わりながら、パドルを使って力いっぱいボートを漕ぎ約5kmを1時間半かけて下りました。

子どもたちは水鉄砲やパドルを使って水をかけ合うなど、普段見慣れていても味わうことのできない体験で、最上川とのふれあいを満喫しました。

作家野田知佑さんと川下り

作 家でカヌーイストの野田知佑さんによるトークショーが、6月30日（土）に虹のプラザ多目的ホールで開かれました。これは大石田アウトドアクラブ遊Be 隊（柴田和徳代表）が主催したもので、会場には約80名の熱心なファンが詰め掛けました。ステージにはテントやテーブルが設けられ、野田さんが過去にカヌーで下った国内外の川のスライドが映し出されるなか、野田さんはアウトドアチェアに腰かけ、北米ユーコン川など海外での体験や国内の川の現状、最上川の魅力などを語りました。

また、翌日は最上川カヌーツーリングが催され、参加者約30名が川端地区の舟着場から名木沢橋までの約12kmをゆったりと楽しみました。

